

川崎医科大学

試験日 2023年1月22日 時間80分 数学I|数学II|数学III|数学A|数学B(数列, ベクトル)

1 θ は $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ を満たす定数とし, 関数 $f(x) = \log_{\sin\theta} x$ がある.

(1) $\theta = \frac{\pi}{6}$ とする. $f(1) = \square$, $f(4) = \square$ である.

また, $x > 0$ のとき関数 $f(2x^2 + 1) - f(4x^4 + 12x^2 + 9)$ は, $x = \frac{\sqrt{\square}}{\square}$ のとき最小値 \square をとる.

(2) $\theta = \frac{\pi}{4}$ とする. $f(x) = \square \log_2 x$ であり, $\frac{f(8)}{\sqrt[3]{-f(16)}} = \square$ である. また, x の不等式

$2\{f(x)\}^2 + 9f(x) - 5 > 0$ を満たす最小の自然数 x は \square である.

(3) 原点を O とする座標平面で, $y = |f(x)|$ のグラフ上に 3 点を取り, y 軸に近い方から順に A, B, C とする. 3 点 A, B, C は一直線上に並んでおり, A, B, C から x 軸に垂線を引き, 交点をそれぞれ A', B', C' とすると, $OA' : A'B' : B'C' = 1 : 1 : 1$ である. このとき, 点 C' の x 座標は $\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である. ま

た, 四角形 $AA'C'C$ の面積が $\frac{\sqrt{3}}{2}$ のとき, $\sin^2 2\theta = \frac{\square}{\square}$ である.

2 原点を O とする座標空間に, 3 点 $A(2, 2, 0), B(0, 2, 2), P(t, t, t)$ がある. 線分 AB を直径とする球面を K とし, 球面 K の中心を C とする. ただし, t は正の実数とする.

(1) $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \square$ であり, 球面 K の方程式は, $x^2 + y^2 + z^2 - \square x - \square y - \square z + \square = 0$ である.

(2) 直線 OP と球面 K の共有点を P_1, P_2 とし, $OP_1 < OP_2$ とする. P_1 の x 座標は $\frac{\square}{\square}$ であり, P_2 の x

座標は \square である. このとき, $\triangle CP_1P_2$ の面積は $\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}$ である.

(3) 点 P を通り直線 OP に垂直な平面が球面 K と接するとき, 接点の座標を (p, q, r) とすると,

$p = \frac{\square}{\square} - \frac{\sqrt{\square}}{\square}$, $\frac{\square}{\square} + \frac{\sqrt{\square}}{\square}$ である. ただし, 2 つずつある \square , \square , \square にはそれぞれ同じものがはいる. このとき, 2 つの p の値に対応する接点を p の値が小さい順に T_1, T_2 とし, 点 T_2 から直線

OT_1 に垂線 T_2D を引くと, $D\left(\frac{\square}{\square}, \square + \frac{\sqrt{\square}}{\square}, \frac{\square}{\square}\right)$ である.

(4) 点 P を通り直線 OP に垂直な平面 α と球面 K の共有部分が円 R となるときを考える. ただし, 平面 α が点 C を通るときを除くとする. このとき, C を頂点とし, 円 R を底面とする円錐の体積の最大値は

$\frac{\square\sqrt{\square}}{\square}\pi$ である.

3 (1) 関数 $f(x) = \sin^{11} x$ ($-\pi \leq x \leq \pi$) は, $x = \frac{\square}{\square}\pi$ のとき極大値 \square をとり, $x = \frac{\square}{\square}\pi$ のとき極小値 \square をとる. また, 曲線 $y = f(x)$ の 5 つある変曲点の x 座標を小さい順に $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4, \alpha_5$ とする

るとき, $\sum_{k=1}^5 \cos^2 \alpha_k = \frac{\square}{\square}$ である.

(2) 0 以上の整数 m, n に対して, $S(m, n) = \int_{-1}^1 (1-x)^m (1+x)^n dx$ とすると, $S(3, 1) = \frac{\square}{\square}$ である.

2 川崎医科大学

また、 n を 1 以上の整数とすると、 $S(m, n)$ を $S(m+1, n-1)$, m, n を用いて表すと、

$$S(m, n) = \frac{\square}{\square} S(m+1, n-1) \text{ である.}$$

また、 $S(5, 5) = \frac{\square}{\square}$ である.

(3) (1) において、 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲で、 $y = f(x)$ のグラフと x 軸、および直線 $x = \frac{\pi}{2}$ で囲まれる部分

の面積は $\frac{\square}{\square}$ である.

1 **【数学Ⅱ】【指数・対数不等式】【標準】**

▶解答◀ (1) $\theta = \frac{\pi}{6}$ のとき

$$f(x) = \log_{\frac{1}{2}} x = \frac{\log_2 x}{\log_2 \frac{1}{2}} = -\log_2 x$$

$$f(1) = 0, f(4) = -2$$

$$\begin{aligned} f(2x^2+1) - f(4x^4+12x^2+9) \\ = -\log_2(2x^2+1) + \log_2(4x^4+12x^2+9) \\ = \log_2 \frac{4x^4+12x^2+9}{2x^2+1} \end{aligned}$$

$$= \log_2 \left(2x^2 + 5 + \frac{4}{2x^2+1} \right)$$

ここで、相加相乗平均の不等式より

$$\begin{aligned} 2x^2 + 5 + \frac{4}{2x^2+1} &= 2x^2 + 1 + \frac{4}{2x^2+1} + 4 \\ &\geq 2\sqrt{(2x^2+1) \cdot \frac{4}{2x^2+1}} + 4 = 8 \end{aligned}$$

等号成立は $2x^2+1 = \frac{4}{2x^2+1}$ より

$$(2x^2+1)^2 = 4$$

$$2x^2+1 = 2 \quad \therefore x^2 = \frac{1}{2}$$

$$x = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$x = \frac{\sqrt{2}}{2}$ のとき最小値 $\log_2 8 = 3$ をとる.

(2) $\theta = \frac{\pi}{4}$ のとき

$$f(x) = \log_{\frac{1}{\sqrt{2}}} x = \frac{\log_2 x}{\log_2 \frac{1}{\sqrt{2}}} = -2\log_2 x$$

$$\frac{f(8)}{\sqrt[3]{-f(16)}} = \frac{-2 \cdot 3}{\sqrt[3]{-(-2 \cdot 4)}} = \frac{-6}{2} = -3$$

$$2\{f(x)\}^2 + 9f(x) - 5 > 0 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

$$(2f(x)-1)(f(x)+5) > 0$$

$$f(x) < -5, \frac{1}{2} < f(x)$$

$$-2\log_2 x < -5, \frac{1}{2} < -2\log_2 x$$

$$\log_2 x > \frac{5}{2}, -\frac{1}{4} > \log_2 x$$

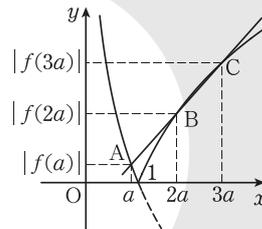
$$x > 2^{\frac{5}{2}}, x < 2^{-\frac{1}{4}}$$

$5 < 2^{\frac{5}{2}} = \sqrt{32} < 6, 2^{-\frac{1}{4}} < 1$ であるから ① を満たす最小の自然数 x は **6** である.

(3) $\sin \theta = p$ とおく. $0 < p < 1$ である.

$$f(x) = \log_p x$$

$y = |f(x)|$ のグラフは $y = \log_p x$ のグラフの $y < 0$ の部分 ($x > 1$ の部分) を x 軸に関して折り返したものである (図参照).



A' の x 座標を a とすると

$$A(a, |f(a)|), B(2a, |f(2a)|), C(3a, |f(3a)|)$$

$y = |f(x)|$ のグラフは $0 < x < 1$ では下に凸、 $1 < x$ では上に凸であるから A, B, C の 3 点すべてが $0 < x < 1$ の部分、または $1 < x$ の部分に乗ることはない。よって、 $0 < a < 1$ かつ $1 < 3a$ を満たす.

$$\frac{1}{3} < a < 1 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

B は AC の中点であるから

$$2|f(2a)| = |f(a)| + |f(3a)|$$

$$2|\log_p 2a| = \log_p a - \log_p 3a$$

$$|\log_p 2a| = \frac{1}{2} \log_p \frac{1}{3}$$

$$\log_p 2a = \log_p 3^{\pm \frac{1}{2}}$$

$$2a = \sqrt{3}, \frac{1}{\sqrt{3}} \quad \therefore a = \frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2\sqrt{3}}$$

② より $a = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であるから C' の x 座標は $3a = \frac{3\sqrt{3}}{2}$

四角形 $AA'C'$ は台形であるから

$$\frac{1}{2}(\log_p a - \log_p 3a) \cdot 2a = \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$\frac{\sqrt{3}}{2} \log_p \frac{1}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2} \quad \therefore \log_p \frac{1}{3} = 1$$

$p = \frac{1}{3}$ であるから $\sin \theta = \frac{1}{3}$ である.

$$\begin{aligned} \sin^2 2\theta &= (2 \sin \theta \cos \theta)^2 = 4 \sin^2 \theta (1 - \sin^2 \theta) \\ &= 4 \cdot \frac{1}{9} \cdot \frac{8}{9} = \frac{32}{81} \end{aligned}$$

2 **数学B** 【球面の方程式】 **標準**

考え方 t は定数で、点 P は定点であるが、点 $(1, 1, 1)$ と原点 O を結ぶ直線上に動点 $P(t, t, t)$ がある、と考える方が分かりやすい.

解答 (1) $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = 4$

K の中心は $C(1, 2, 1)$ 、直径は $AB = \sqrt{4+0+4} = 2\sqrt{2}$ であるから、

$$\begin{aligned} K &: (x-1)^2 + (y-2)^2 + (z-1)^2 = 2 \\ K &: x^2 + y^2 + z^2 - 2x - 4y - 2z + 4 = 0 \end{aligned}$$

(2) $P(t, t, t)$ が K 上にあるとき

$$\begin{aligned} 3t^2 - 8t + 4 &= 0 \\ (3t-2)(t-2) &= 0 \quad \therefore t = \frac{2}{3}, 2 \end{aligned}$$

P_1 の x 座標は $\frac{2}{3}$ 、 P_2 の x 座標は 2 である.

$P_1(\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, \frac{2}{3})$ 、 $P_2(2, 2, 2)$ 、 $C(1, 2, 1)$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{CP}_1 &= \left(-\frac{1}{3}, -\frac{4}{3}, -\frac{1}{3}\right), \vec{CP}_2 = (1, 0, 1) \\ \vec{CP}_1 \cdot \vec{CP}_2 &= -\frac{1}{3} - \frac{1}{3} = -\frac{2}{3} \end{aligned}$$

$\triangle CP_1P_2$ の面積は

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{CP}_1|^2 |\vec{CP}_2|^2 - (\vec{CP}_1 \cdot \vec{CP}_2)^2} \\ = \frac{1}{2} \sqrt{2 \cdot 2 - \frac{4}{9}} = \frac{2\sqrt{2}}{3} \end{aligned}$$

(3) T_1 と T_2 を結ぶ線分は球面 K の直径である. 図1は O, C, P を通る平面で切ったときの断面図で、 l_1 、 l_2 は K に接する平面である. 接点を単に T と書くことにすると $\vec{CT} \parallel \vec{OP}$ かつ $|\vec{CT}| = \sqrt{2}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{CT} &= \pm \frac{|\vec{CT}|}{\sqrt{3}} (1, 1, 1) = \pm \left(\frac{\sqrt{6}}{3}, \frac{\sqrt{6}}{3}, \frac{\sqrt{6}}{3}\right) \\ \vec{OT} &= \vec{OC} + \vec{CT} \\ &= \left(1 \pm \frac{\sqrt{6}}{3}, 2 \pm \frac{\sqrt{6}}{3}, 1 \pm \frac{\sqrt{6}}{3}\right) \end{aligned}$$

$p = 1 \pm \frac{\sqrt{6}}{3}$ である.

T_1T_2 が K の直径で、 $\angle T_1DT_2 = 90^\circ$ であるから D は K 上にある. $\vec{OD} = k\vec{OT}_1$ とおく. D の座標は

$$k \left(1 - \frac{\sqrt{6}}{3}, 2 - \frac{\sqrt{6}}{3}, 1 - \frac{\sqrt{6}}{3}\right)$$

(1) で求めた K の方程式に代入して

$$\begin{aligned} k^2 \left(\left(1 - \frac{\sqrt{6}}{3}\right)^2 + \left(2 - \frac{\sqrt{6}}{3}\right)^2 + \left(1 - \frac{\sqrt{6}}{3}\right)^2 \right) \\ - 2k \left(1 - \frac{\sqrt{6}}{3} + 2 \left(2 - \frac{\sqrt{6}}{3}\right) + 1 - \frac{\sqrt{6}}{3} \right) + 4 = 0 \\ \left(8 - \frac{8\sqrt{6}}{3} \right) k^2 + \left(\frac{8\sqrt{6}}{3} - 12 \right) k + 4 = 0 \end{aligned}$$

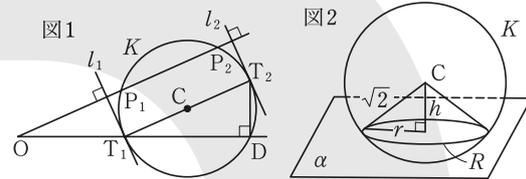
$$(6 - 2\sqrt{6})k^2 + (2\sqrt{6} - 9)k + 3 = 0$$

$$(k-1)((6-2\sqrt{6})k-3) = 0$$

$k=1$ のとき D は T_1 と一致するから

$$k = \frac{3}{6-2\sqrt{6}} = \frac{3+\sqrt{6}}{2}$$

$$\begin{aligned} \vec{OD} &= \frac{3+\sqrt{6}}{2} \left(\frac{3-\sqrt{6}}{3}, \frac{6-\sqrt{6}}{3}, \frac{3-\sqrt{6}}{3} \right) \\ &= \left(\frac{1}{2}, 2 + \frac{\sqrt{6}}{2}, \frac{1}{2} \right) \end{aligned}$$



(4) 図2を見よ. 円 R の半径を r 、 K の中心 C から α までの距離を h とすると、 $r^2 + h^2 = 2$ ($0 < h < \sqrt{2}$) が成り立つ. 円錐の体積を V とする.

$$V = \frac{1}{3} \pi r^2 h = \frac{\pi}{3} (2 - h^2) h = \frac{\pi}{3} (2h - h^3)$$

$$V' = \pi \left(\frac{2}{3} - h^2 \right)$$

$h = \sqrt{\frac{2}{3}}$ のとき V は最大で

$$V = \frac{\pi}{3} \left(2 - \frac{2}{3} \right) \sqrt{\frac{2}{3}} = \frac{4\sqrt{6}}{27} \pi$$

別解 (1) K 上の点を $X(x, y, z)$ とする. A, B は球の直径の両端であるから、 $\vec{AX} \perp \vec{BX}$ より

$$(x-2, y-2, z) \cdot (x, y-2, z-2) = 0$$

$$K: x^2 + y^2 + z^2 - 2x - 4y - 2z + 4 = 0$$

(3) 後半: D の座標について

$$s = \frac{\sqrt{6}}{3} \text{ とおく.}$$

$$T_1(1-s, 2-s, 1-s), T_2(1+s, 2+s, 1+s)$$

点 D は直線 OT_1 上にあるから $\vec{OD} = k\vec{OT}_1$ と表せて $OT_1 \perp T_2D$ より

$$\begin{aligned} \vec{OT}_1 \cdot \vec{T_2D} &= \vec{OT}_1 \cdot (\vec{OD} - \vec{OT}_2) \\ &= \vec{OT}_1 \cdot (k\vec{OT}_1 - \vec{OT}_2) \\ &= k|\vec{OT}_1|^2 - \vec{OT}_1 \cdot \vec{OT}_2 = 0 \end{aligned}$$

4 川崎医科大学

$$\begin{aligned}
 &k((1-s)^2 + (2-s)^2 + (1-s)^2) \\
 &= (1-s)(1+s) + (2-s)(2+s) \\
 &\quad + (1-s)(1+s) \\
 &k(3s^2 - 8s + 6) = 6 - 3s^2 \\
 &\left(8 - \frac{8\sqrt{6}}{3}\right)k = 4 \quad \therefore \frac{8}{3}(3 - \sqrt{6})k = 4 \\
 &k = \frac{3}{2(3 - \sqrt{6})} = \frac{3 + \sqrt{6}}{2} \\
 &\vec{OD} = k(1-s, 2-s, 1-s) \\
 &= \frac{3 + \sqrt{6}}{2} \left(\frac{3 - \sqrt{6}}{3}, \frac{6 - \sqrt{6}}{3}, \frac{3 - \sqrt{6}}{3} \right) \\
 &= \left(\frac{1}{2}, 2 + \frac{\sqrt{6}}{2}, \frac{1}{2} \right)
 \end{aligned}$$

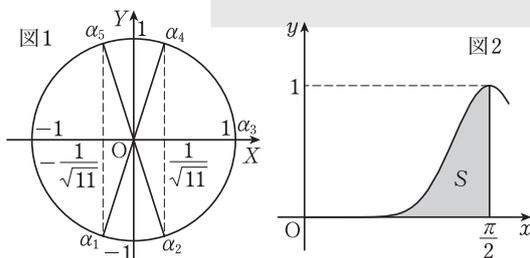
3 **数学Ⅲ**【数列との融合】標準

▶解答◀ (1) $f(x) = \sin^{11} x$
 $f'(x) = 11 \sin^{10} x \cos x$

x	$-\pi$	\dots	$-\frac{\pi}{2}$	\dots	0	\dots	$\frac{\pi}{2}$	\dots	π
$f'(x)$			$-$	0	$+$	0	$+$	0	$-$
$f(x)$			\searrow		\nearrow		\nearrow		\searrow

$x = \frac{\pi}{2}$ のとき極大値 $f\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1$ をとり、
 $x = -\frac{\pi}{2}$ のとき極小値 $f\left(-\frac{\pi}{2}\right) = -1$ をとる。
 $f''(x) = 11(10 \sin^9 x \cos^2 x - \sin^{11} x)$
 $= 11 \sin^9 x (10 \cos^2 x - \sin^2 x)$
 $= 11 \sin^9 x (11 \cos^2 x - 1)$
 $\cos x = \pm \frac{1}{\sqrt{11}}$ のときプラスマイナスそれぞれに対して
 x の値が 2 つずつ対応し、 $\sin x = 0$ のとき $x = 0$ である。
 小さい方から並べたとき $\alpha_3 = 0$ で、それ以外のときは $\cos^2 \alpha_k = \frac{1}{11}$ である (図1)。

$$\sum_{k=1}^5 \cos^2 \alpha_k = 4 \cdot \frac{1}{11} + 1 = \frac{15}{11}$$



(2) $S(3, 1) = \int_{-1}^1 (1-x)^3(1+x) dx$
 $= \int_{-1}^1 (1-x)^3(2-(1-x)) dx$
 $= \int_{-1}^1 (2(1-x)^3 - (1-x)^4) dx$

$$\begin{aligned}
 &= \left[-\frac{1}{2}(1-x)^4 + \frac{1}{5}(1-x)^5 \right]_{-1}^1 \\
 &= 8 - \frac{32}{5} = \frac{8}{5} \\
 S(m, n) &= \int_{-1}^1 (1-x)^m(1+x)^n dx \\
 &= \int_{-1}^1 \left(-\frac{1}{m+1}(1-x)^{m+1} \right)' (1+x)^n dx \\
 &= - \left[\frac{(1-x)^{m+1}}{m+1} (1+x)^n \right]_{-1}^1 \\
 &\quad + \frac{1}{m+1} \int_{-1}^1 (1-x)^{m+1} ((1+x)^n)' dx \\
 &= \frac{n}{m+1} \int_{-1}^1 (1-x)^{m+1} (1+x)^{n-1} dx \\
 &= \frac{n}{m+1} S(m+1, n-1)
 \end{aligned}$$

アが①, イが④である。

$$\begin{aligned}
 S(5, 5) &= \frac{5}{6} S(6, 4) = \frac{5}{6} \cdot \frac{4}{7} S(7, 3) \\
 &= \frac{5}{6} \cdot \frac{4}{7} \cdot \frac{3}{8} S(8, 2) \\
 &= \frac{5}{6} \cdot \frac{4}{7} \cdot \frac{3}{8} \cdot \frac{2}{9} S(9, 1) \\
 &= \frac{5}{6} \cdot \frac{4}{7} \cdot \frac{3}{8} \cdot \frac{2}{9} \cdot \frac{1}{10} S(10, 0) \\
 &= \frac{1}{7 \cdot 9 \cdot 4} \int_{-1}^1 (1-x)^{10} dx \\
 &= \frac{1}{7 \cdot 9 \cdot 4} \left[-\frac{1}{11}(1-x)^{11} \right]_{-1}^1 \\
 &= \frac{2^{11}}{7 \cdot 9 \cdot 4 \cdot 11} = \frac{512}{693}
 \end{aligned}$$

(3) 求める面積を S とおく。

$$\begin{aligned}
 S &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{11} x dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sin^{10} x \sin x dx \\
 &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (1 - \cos^2 x)^5 \sin x dx \\
 \cos x = c \text{ とおくと, } -\sin x dx &= dc \text{ で, 積分区間は} \\
 c: 1 \rightarrow 0 \text{ に変わる.} \\
 S &= - \int_1^0 (1-c)^5(1+c)^5 dc \\
 &= \int_0^1 (1-c)^5(1+c)^5 dc
 \end{aligned}$$

$(1-c)^5(1+c)^5$ は偶関数であるから

$$\begin{aligned}
 S &= \frac{1}{2} \int_{-1}^1 (1-c)^5(1+c)^5 dc \\
 &= \frac{1}{2} S(5, 5) = \frac{1}{2} \cdot \frac{512}{693} = \frac{256}{693}
 \end{aligned}$$

要の分析 小問の中に複数の問いがあるため
 実質の問題数はかなり多く、80 分では見直す時間
 も取れそうにない。計算は落ち着いて一発で決め
 よう。

(田沼, 茅嶋, 中邨, 安田亨)